

令和2年度小松市立苗代小学校 学校評価1 (年度末)

めざす児童生徒像

【自ら 高める子】  
 児童自身が主体性と意欲を持ち、共に感化し合って充実感・達成感を共有し合いながら共に高まろうとしていく。  
 徳・・・なかよくする子      知・・・かんがえて頑張る子  
 体・・・よく遊ぶ子          礼・・・しっかりあいさつする子      なかよし

※児童生徒達成結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者		
学校目 設	温かい学級づくり	学級力アンケートにおいて、学級ごとの取組を通して、評価ポイントの上昇を図る。	① みんなで決めた目標に力を合わせて取り組んでいる学級である。	95.2	90.3		-4.9	81.8	89.8		8.0
			② 学校生活で教え合いや助け合いをしている学級である。	87.0	92.9		5.9	81.8	88.4		6.6
			③ 友達の上さを認め合っている学級である。	82.6	89.0		6.4	77.3	90.8		13.5
			集計	88.3	90.7		2.5	80.3	89.7		9.4

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者		
重点項目 石川県共通	業務の改善 働き方や	アンケートの全ての項目で肯定的評価をしている教職員が80%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	89.3			81.5			・日々の業務改善については、様々な取組を進めてきたと感じている職員が多くなっており、意識の高さがうかがえる。一方でなかなか改善が進まず、負担感の減少や達成感が向上していないことがうかがえる。	・個々の教員の取組を進めながら、業務改善がどのように進んでいるのかを見える化し、改善の度合いを共有する必要があると感じる。効果的な取組を共有しながら、負担感の削減や達成感の向上につなげていきたい。
			② 業務改善を意識して、日々の業務に取り組んでいる。	75.0			88.9				
			③ 働き方や業務の改善のために、実践していることがある。	71.4			84.6				
			④ 働きがいを感じることもある。	71.4			70.4				
			集計	76.8			81.3				

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者		
小松市共通 重点項目	学校研究	①～③の肯定的回答が85%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	88.0			91.7			今年度は計画通りに進められなかったこともあったが、全体研究会（要請訪問）を三回、ブロック部会での研究授業を三回行った。また、外部講師によるオンラインでの講話を実施した。研究会での学びや指導事の先生方、外部講師からの助言を日々の学習指導に活かしている様子がうかがえる。	研究会での学びを日々の授業に十分に活かすためにも、研究会の持ち方や進め方の見直しが必要だと感じる。研究主題や目指す授業像についてもさらに具体的にしていこうと、より視点を絞った取り組みができるようになる。
			② 研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	96.0			95.8				
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100.0			96.0				
			④ 授業力アップシートの結果を受け、授業力の向上を図るための方策を実践している。	92			92.0				
			集計	94.0			93.9				
	指導力の向上	②④⑥の児童の肯定的回答の割合が前期 → 80% 後期 → 90%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	84.0	88.5		4.5	76.0	92.9		16.9
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	68.0	87.4		19.4	84.0	91.0		7.0
			③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	52.0	88.2		36.2	64.0	90.5		26.5
			④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	50.0	91.0		41.0	68.0	93.2		25.2
			⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	68.0	92.4		24.4	84.0	92.7		8.7
			⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	72.0	92.7		20.7	92.0	94.6		2.6
	学力の定着	②の肯定的回答の割合が90%以上	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	88.0			92.6			①については、どの学年でも国語の活用（条件作文）を鍛える学チャレや言葉のたから箱を使った作文指導を計画的に行い、進めてきたことが肯定的な評価の数値となっていると考える。 ②については、9.5ポイント上昇したものの、約8割の肯定的評価ということで、全職員の共有化が難しかったと考える。	学校力向上ロードマップを全職員（特に研究3部会）で確認し、定期的な検証をしていく。
② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。			72.0			81.5					
③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）											
集計			76.6			84.8					
家庭学習	②の肯定的回答の割合が80%以上	① 自分で計画を立てて勉強している（3年以上）	58.8	92.3	33.5	70.6	93.2		22.6		
		② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	87.5			95.8			①については、教師の評価が中間より11.8ポイント上昇し、家庭学習の取り組み方が良くなったと感じている教師が多くなったと言える。 ②についても、8.3ポイント上昇し、家庭学習の評価・指導を継続的に進めてきたことがうかがえる。		
		集計	74.3	92.3	18.0	83.7	93.2	9.5			

令和2年度小松市立苗代小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<b>目標</b> いじめの早期発見・早期対応と予防を図る。	6月末に第Ⅰ期のいじめアンケートを実施した。それをもとに、組織的に対応すべき案件が2件あることを発見し、早期に対応することができた。学級力アンケートは6月半ばに実施し、学級力チャートを作成した。それを見ながら、学級活動で自分達の学級のよいところ、これから伸ばしたいところを出し合い、今後の取り組みを決定する時間を設けた。取り組みのふり返りも行い、自分達で学級をよくしようとす素地を育みたい。	10月に第Ⅱ期のいじめアンケートを実施したところ、いずれも学年での対応で様子を見ていくという事案に留まった。しかし、「いじめられている」・「いじめている」と回答する児童がいる以上、学年・学校での対応をいつでもできるように体制を整えておく必要はある。それとほぼ同時期に学級力アンケートも実施した。第1回目と比較して、自分たちの学級の良くなった点やそうでない点が鮮明になり、自分たちの学級を高めるための話し合いがより具体的になったと考える。学級力を高める方策の決定・実践による自己有用感、集団の一員としての所属感の育成に加え、個を見とる視野をもって指導にあたりたい。
	<b>具体的取組</b> ①いじめ調査の実施による早期発見・早期対応 ・年間3回いじめ調査・担任による追跡調査を行い、学年会や児童理解の会での情報共有に生かす。 ・いじめ対策会議を開き、対応方針を決定、実行する。 ②学級力アンケートの実施と活用（いじめの予防） ・学級力アンケートを年3回実施する。 ・学級をよりよくするための目標及び具体策を決め、全員が目標達成に向けて取り組む。		
特別支援教育	<b>目標</b> 個に応じた適切な支援を行う。	①6月末に気づき票に基づいた実態把握、7月の個人懇談で家庭との情報共有を踏まえ、要個別支援児童について支援シートを作成する。8月25日の特別支援学年会にて、支援策を学年で共有して、2学期に実施していきたい。 ②夏季休業中に1年生対象のMIMの準備をし、10月に実施、その後読みの指導をして、学習の下支えとなる力をつけたい。 ③1学期中の特記事項を、個別の支援シートやカルテにまとめておいてもらい、2学期以降の指導に生かしたい。	①7月と12月の個人懇談会では、要支援児童について保護者とも情報共有し、専門相談や通級指導につながる事ができた。しかし、保護者の理解と協力が不十分な家庭も多いため、さらにチームでの対応を継続する必要がある。 ②MIMの指導で1年生の個々の学習状況を把握し全体への指導ができた。朝自習の充実のためにも有効であった。次年度以降も担任+αで指導を継続する方向で進められるとよい。 ③特別支援学年会等において個別の支援策についての振り返りをし、シートにまとめることができた。年度末の引継ぎに活用したい。
	<b>具体的取組</b> ①1学期中に配慮、支援が必要な児童について担任を中心に実態把握、共通理解をし、夏休み中に支援策の策定を学年会及び校内委員会で行う。児童理解の会等で全職員への周知を図る。 ②特別支援教育コーディネーターが10月頃に1年生を対象に読みのスクリーニングテスト(MIM)を実施し、その結果をもとに2・3ステージレベルの児童に対して11月頃から各学級で少人数指導を行う。 ③学年が上がっても必要な支援の引継ぎが行われるように個別の支援シートの活用に取り組む。		
児童会活動	<b>目標</b> 児童の主体的自治的意識を高める。	①本年度はコロナ対策により、児童集会は企画しなかった。その代わりに、各委員会活動を可能な範囲で活性化させるようにしている。短い期間で子ども達から出たアイデアを具現化している(給食準備パッチリ選手権、廊下歩き隊等)。 ②仲良くしよう会の第1回を実施した。コロナ対策の為、3日間に分けて実施した。6年生は各クラスでこの日の為に企画・準備・リハーサルを進めた。その過程で、6年生は高学年としてのリーダー意識を高めることができた。また、感染症対策をしながら学年を超えた児童の関りを増やすことができた。	①1年間を通してコロナ対策の為、各委員会活動を可能な範囲で活性化させた。児童から出たアイデアを具現化した(以下の通り：マスク調べ、挨拶運動、準備パッチリ選手権、残食調査、休み時間の過ごし方ビデオ放送、季節に合わせてくじ引き、ほんの読み聞かせ、ハンカチ調べ、環境クイズ、放送生中継、リクエスト曲、イラスト・俳句コンクール等)。次年度も児童の主体的自治的意識を高める為に、児童発案の企画を可能な範囲で実行していきたい。 ②コロナ対策を行いながら、仲良くしよう会を年3回実施した。3回目は、完全に5年生主導で進めた。また、本年度から縦割掃除を実施した。いずれの活動を通して、5・6年生のリーダーとしての自覚を高めることができた。次年度も継続したい。
	<b>具体的取組</b> ①児童集会の企画・運営を児童会が主体的に取り組み、自分たちでよりよい学校を作ろうとする意識を高める。 ・年2回 6月、11月 ②児童会主催の縦割り活動を実施することで、学年を超えた児童の関わりを増やし、高学年のリーダーとしての意識を高める。 ・学期に1回(年3回) ・全校を縦割りグループに分けて活動を行う。 ・第2回以降から次年度を見据えて、5年生中心の活動に移行していく。		
道徳教育	<b>目標</b> 道徳の授業力の向上を図る。	・各学年の研究授業は2学期に行う。授業者は決定済である。 ・職員会議で、学校における道徳教育について取り上げ、道徳の授業を要として、学校の教育活動全体を通じて行っていくものであることを共有した。また、普段の授業実践をまとめ、掲示し、交流した。	・各学年で授業を練り、研究授業を行い、道徳通信を通して、全職員で成果と課題を共有した。次年度の授業に活かしていく。 ・系統性を意識して授業を構成するために、重点項目において、授業で意識してほしいポイントを学年ごとにキーワードで示したり、どこを見て系統性を確認したりするかを道徳通信で明示した。来年度は、重点項目以外の系統性や発問の精選方法等を共有していき、さらに授業力向上に努めていきたい。
	<b>具体的取組</b> ・各学年1本の研究授業を行い、授業力向上の場とする。 ・研究授業や普段の授業の様子を取り上げた道徳通信を年間2回以上発行し、各自の取組の共有を図る。		
安全教育	<b>目標</b> 「自分の命は自分で守る」という意識の育成。	・コロナのための休校の影響で実施時期がずれたが、休校明け後「命にかかわる行事」を最優先し、計画実施した。 ・マスクの着用、手洗い、廊下を走らない等全職員の共通理解のもと、児童の安全意識の育成に努めることができた。今後も継続していきたい。 ・校内の消毒作業も職員分担のもと継続していく。	・今年度はコロナの影響で、「安全・命」を最優先に避難訓練の実施を判断した。6月、10月に避難訓練を実施【運動場避難】、1月は実施を見送った。また、救助袋体験も次年度に先送りした。シェイクアウト訓練に関しては7月、11月に実施し、地震に対する初期対応を確認ができた。この状況の中で、緊張感を持ち活動できた。次年度も状況に応じて判断していきたい。 ・「マスクの着用」「手洗い」に加え、3学期からは「換気」を加え、保健指導や学級指導、保健委員会活動等で学校一体となって取り組み児童の安全意識の育成に努めることができた。次年度も、継続していく必要がある。 ・けがに関しても月毎のデーターを提示し、児童会と連携し、安全意識を高める呼びかけができた。 ・校内の消毒作業も職員分担のもと継続してきた。
	<b>具体的取組</b> ①年3回の避難訓練(火災5月、休み時間10月、地震から火災1月)や不審者対応の防犯教室を夏休み前、地震に対しては7月にシェイクアウト訓練で初期対応の確認、10月の避難訓練後に救助袋体験(3年対象)、防火扉体験(6年対象)も行う等年間を通して計画的に実施し、安全意識を高める。 ②日々の生活の中から安全意識を高め、安全な行動ができる判断力を育成していく。(昨年度のけがの状況調査をもとに) ③感染症に対して、手洗いの徹底、ハンカチの携帯を推奨し、健康・安全意識を高める。		

<b>学校関係者評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様子や学校での子ども様子などがわからないという声があるが、親子のコミュニケーションの機会として生かしてほしいと願う。聞いても話してくれないということだが、聞き方の工夫をしたり、親子のコミュニケーションの方法を考えていかなければならないのではないかとされる。</li> <li>・放課後のスポーツクラブの様子をみると、SNSなどの発達により、指導者から子どもへ伝えるべき情報が先にSNSで親に伝わり、親から子へ伝えられるということが起こっている。このため、子どもが自分で必要なことを聞いて伝えるということがおろそかになり、自分のこととしてとらえられなくなっているように感じる。SNSで情報を共有するのは良いが、子どもの自立、成長のためにも先走らないように親自身も考えてもらいたい。</li> <li>・朝のあいさつに立っていると、元気よくあいさつをする子、声はないが会釈をしていく子、何も反応がない子などさまざまであるが、よくあいさつをしてくれるし、元気が良い子どもたちだと感じている。また、一緒に立っている先生方の児童への声かけが素晴らしく、子どもたちへ「ありがとう」と声をかける場面に勉強させられることもあった。子どもたち一人一人を大切にされた指導がなされていると感じている。</li> <li>・次年度は創立150周年ということだが、記念式典を中心にするのではなく、学校として実施したいことをもとにどんな内容にしていくかを考えていくとよい。式典ありきではなく、子どもたちに有効な事業を考えていってほしい。</li> </ul>
----------------	--